SOWER

ソア＝種まく人

No.52
April 2024
一般財団法人
日本聖書協会

特集 **横浜の米国聖書会社ゆかりの人々**

ヘボン・ルーミス・村岡平吉

150th 1875-2025 JBS

新聖書の世界 51

写真／文 横山匡

モーセの生い立ち

兄弟たちにいじめられ、エジプトに売り飛ばされたヨセフ。飢饉がもとで多くのユダヤの民が、豊かなエジプトに移住します。宰相となったヨセフの保護下で、おびただしく増え勢力が強くなったユダヤの民が、国中に溢れました。ついにエジプト王は「生まれた男の子はすべてナイル川に投げ込め」との命令を下すに至ります。祭司であるレビ家に生まれた男児を、母親は三か月間隠し置いたがついに隠し切れず、アスファルトで防水した葦の籠に入れナイル川の水草の茂みに浮かべます。そこにファラオの娘が川で水浴びを始め、籠の赤子を見つけ連れ帰るという、モーセ物語の始まりです。

中流域のアスワンで撮影をしていた時のことです。ナイル河畔で洗濯をする母親の近くで、その娘たちが着衣のまま泳ぐ姿が、あちこちで見られました。聖書の時代と変わらない光景を見る思いでした。

エジプトはナイルの賜物と呼ばれます。世界第二の大河であるこのデルタ地帯では、三期作が可能で、古代世界最大の穀倉地でした。イスラエルの人々は、この地で重い苦役にあえいでいました。神がそのうめきを聞かれたところから、モーセの召命による出エジプトへと物語は展開してゆきます。

The World of the Bible “The Birth of Moses” / Photo & Essay by Yokoyama Tadashi

巻頭聖句

あなたがたに神の言葉を語った
指導者たちのことを思い出しなさい。
彼らの生き様の結末をよく見て、
その信仰に倣いなさい。

（ヘブライ人への手紙13章7節　聖書協会共同訳）

日本聖公会の礎を据えたC・M・ウィリアムズ主教は、1874年に築地居留地の一角に立教学校を創立した。熱意ある開拓精神、謙遜柔和、犠牲的献身の生涯は、「道を伝えて己を伝えず」この言葉に集約される。後日有志は、故郷バージニア州の墓地に追慕碑を建て「創業ノ難ヲ排シ堅忍能ク日本聖公会ノ基ヲ奠ム……日本在任五十年道ヲ伝ヘテ己ヲ伝ヘズ……」と刻んだ。師の神に対する姿勢を倣いつつ、改めて150年前の創業の精神を想起する。

広田勝一
ひろた　かついち
日本聖公会主教、立教学院チャプレン長
日本聖書協会 理事

CONTENTS

SOWER No. 52 2024

2 特集
横浜の米国聖書会社
ゆかりの人々
ヘボン・ルーミス・村岡平吉

8 人物と聖書㊲　鈴木範久
芹澤光治良と聖書

10 エッセー㊽　清涼院流水
「日本のキリスト教会の未来のために」

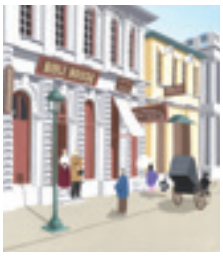
12 聖書セミナー㉖　飯　謙
箴言に見る聖書協会共同訳の特徴

14 第2回聖書エッセイコンテスト入選作品
大賞　「神様の計画」すず
準大賞　「隣のバイブル」fuminaru
準大賞　「幸い!心貧しき、私の夫」ヨグソミネバリ

18 JBS情報
日本聖書協会150年に向けて
海外支援のご報告・お願いと、
能登半島地震支援に向けて

20 ソア52号発行によせて
編集後記

21 新・歴史接写❸
聖書館ビル創建当初の面影
有翼の牛のレリーフ



表紙の言葉
今回は1894年の横浜バイブルハウスを映す写真を元に描きました。明治27年、居留地のある横浜は、そこに住まう西洋人と和服に身を包む日本人が行き交う趣のある光景だったのだろうなと想像が膨らみます。とても楽しく描かせていただきました。（絵・文＝佐藤百合子）

特集

横浜の米国聖書会社ゆかりの人々

ヘボン・ルーミス・村岡平吉

岡部一興
弘前学院大学客員教授

聖書翻訳に尽くした人々
上段左から、グリーン（1843～1913）、フルベッキ（1830～1898）、S・R・ブラウン（1810～1880）。中段左から松山高吉（1847～1935）、ヘボン（上 1815～1911）、奥野昌綱（下 1823～1910）、髙橋五郎（1856～1935）。下段左から、N・ブラウン（1807～1886）、ファイソン（1846～1928）、マクレー（1824～1907）。

日本聖書協会の始まりは、
一八七五年にスコットランド（北英国）聖書協会が、
翌七六年にイギリス（英国）聖書協会と
アメリカ（米国）聖書協会が、横浜にそれぞれ支社（聖書会社）を
設立したことに遡る。この時期の三聖書会社と関わりが深かったのが、
筆者の所属教会でもある横浜指路教会である。
指路教会の初代牧師 H・ルーミスは米国聖書会社の
第二代主幹として長年、日本における聖書頒布を牽引した。
文語訳（明治元訳）事業の中心人物 J・C・ヘボンは、指路教会の
教会堂建設の立役者であった。そして、指路教会の長老村岡平吉は、
福音印刷を創業して聖書の印刷を一手に引き受け、
「バイブルの村岡」と称された。この特集では、
横浜指路教会ゆかりの三人を軸に、草創期の日本聖書協会と
横浜との深いつながりをたどってみたい。

1892年建設の横浜指路教会 教会堂
（写真：横浜指路教会提供）

翻訳委員社中訳
『新約聖書』分冊
1876〜80年
日本聖書協会蔵

「新約聖書 和訳記念之地」碑
1931年の新校舎落成の際、米国聖書協会が寄贈した。戦災で1945年に破損。現在、記念碑は、S・R・ブラウン召天100年の顕彰碑（1980年落成）と合わせて設置されている。写真：横浜共立学園提供

宣教師の来日

一八五八年江戸幕府とタウンゼント・ハリスとの間で、日米修好通商条約が締結され、翌年から一般の人たちが来日できるようになった。横浜では、一八五九年一〇月にはヘボン、一一月にはS・R・ブラウンが神奈川に到着し、成仏寺に住んだ。翌六〇年四月にはJ・ゴーブル、六一年一一月にはJ・H・バラが成仏寺の一角に間借りすることになった。禁教下であったので、宣教師たちは伝道を控え、英語を教えつつ日本語を学び、聖書の翻訳を進めて時期の到来を待った。

この間、ヘボンは、幕府の要請を受けて大村益次郎を含む九人の日本人青年の教育を行なった。一八六二年一二月、ヘボンが横浜の外国人居留地三九番に居を移してからも教育は続けられ、翌年一時帰国から再来日した妻のクララが中心となり、ミセス・ヘボンの学校が再開された。その学校はジョン・バラとM・E・キダーの学校に引き継がれて、それぞれ明治学院とフェリス女学院へと発展した。今日、横浜には、フェリス女学院のほか、関東学院、横浜共立学園、横浜英和学院、捜真学院、横浜雙葉学院など歴史あるミッション・スクールが集まっている。

一八七二（明治五）年は、日本で初めてプロテスタント教会である日本基督公会（のちの横浜海岸教会）が生まれた画期的な年であった。同年九月、横浜居留地三九番ヘボンの施療所で第一回の宣教師会議が開かれた。そこで三つのことが決まった。第一は聖書翻訳、第二は教派に偏らない神学校の創立、第三は無教派主義による教会の創立である。聖書翻訳については、翻訳委員社中が発足し、各派から一名ずつ代表が選ばれ、共同で翻訳を行うこととなった。だが、翻訳委員社中が動き出したのは一八七四年三月からであった。各派から選ばれた委員のなかに辞任する者が出て、結局S・R・ブラウン（委員長）、ヘボン、D・C・グリーンの三人が翻訳に当たることになった。それに日本人助手として奥野昌綱、松山高吉、高橋五郎が参加した。

新約聖書の翻訳

ヘボンたちは一般庶民に受け入れられやすい標準語による翻訳をめざして、新約聖書をギリシア語から翻訳していった。新約聖書は翻訳が終わった書から随時、木版印刷で出版され、その数は一七分冊に上った。翻訳委員社中の発足当初、翻訳の会議は横浜居留地三九番のヘボンの施療所で開催された。ヘボンは翻訳会議の模様を次のように述べている。

「いまわたしのおもな働きは聖書の翻訳です。わたしは五人の翻訳委員の一人です。この委員は一週間のうち四日、午後二時から五時まで、この目的で会合します。わたしどもは、いま、ルカ伝第七章にかかっていますが、一節を訳す

のにも頑固な意見や見解の相違で議論が多いので遅々として進みません。しかしよくやっていると思います。」（高橋道男 編訳『ヘボンの手紙』有隣新書）

お互いに翻訳した原稿を丹念に読み合い、議論が一五分過ぎてもまとまらない場合は、次の日にまわしたという。ヘボンが一八七五年施療所を閉鎖して山手居留地二四五番に移ると、翻訳の会議は同二一一番のブラウン邸で行われた。現在、ブラウン邸跡（横浜共立学園敷地内）には、「新約聖書 和訳記念之地」碑が建っている。

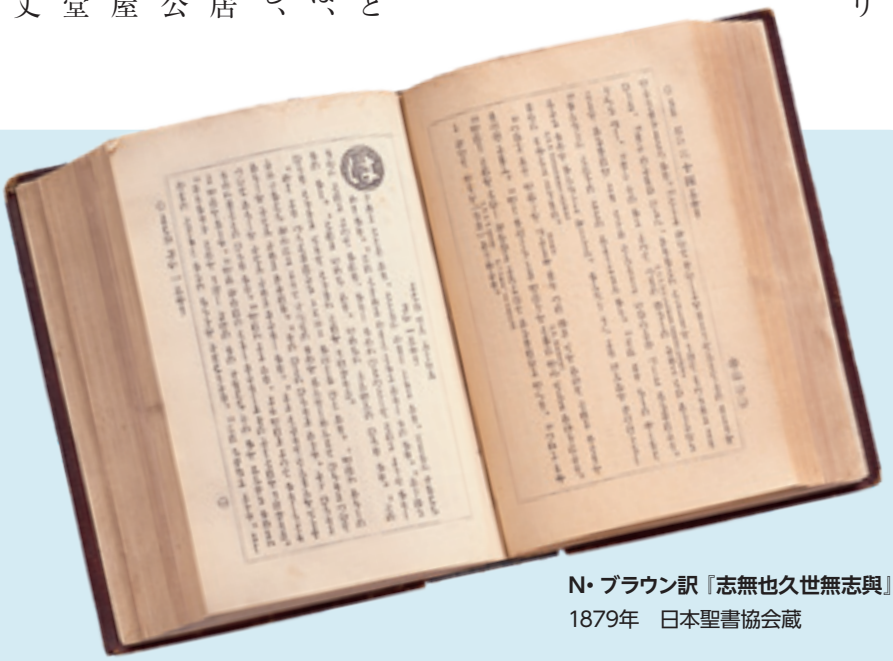
新約聖書全体の翻訳が終わったのは、一八七九（明治一二）年一一月のことであった。翻訳委員社中の新約聖書の翻訳が完了した時、病のためマサチューセッツ州モンソンに住むS・R・ブラウンのもとに完成の電報が届いた。ブラウンはその電文を何度も見返していたという。一八七四年三月の翻訳作業の開始から五年八ヵ月の年月が経過していた。新約聖書は、全体にわたり奥野昌綱の力を借りて訳稿の訂正が加えられ、八〇年に新約全書が出版された。

これより一年前の一八七九年八月、N・ブラウンが『志無也久世無志與』の翻訳を完成した。木版印刷のヘボンたちの翻訳に対して、N・ブラウンの手掛けた聖書は活版印刷で刊行され、また前者が中世以降の写本に基づく底本（公認本文＝テクストゥス・レセプトゥス）からの翻訳であったのに対し、後者は古代の写本を含むギリシア語の原典に基づいた翻訳であった。N・ブラウン訳は、平仮名連続活字分かち書きによる訳で、行間に注を付け、難解な語句や外国の固有名詞に説明とルビが付いていた。だが、バプテスト教会のなかでは普及したものの、ヘボンたちの標準語による聖書の方が広く普及した。

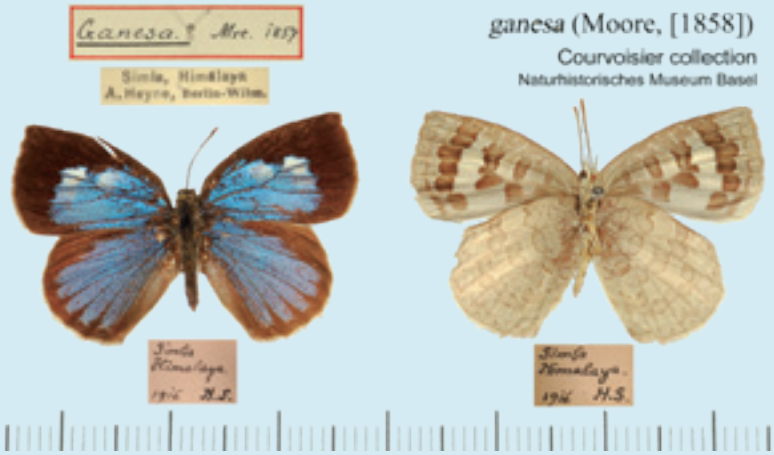
米国聖書会社主幹ルーミス

一八七二年五月、妻ジェーン・ヘリングとともに来浜した米国長老教会のH・ルーミスは、ヘボン塾で教えるうちに受洗者を生み出し、一八名の信徒をもって一八七四年九月、横浜居留地三九番のヘボンの施療所で横浜第一長老公会（現横浜指路教会）を創立した。銀座で十字屋というキリスト教書店を経営していた戸田欽堂は、ルーミスのことを、「素敵に顔の長い身丈の高い上品な偉人が来た」という印象を述べている。礼拝後にはルーミスの指導で、妻ジェーンのオルガン伴奏に合わせて讃美歌を練習した。一八七四年には、『教のうた』という一九篇からなる讃美歌を奥野昌綱の手を借りて出版している。

一八七六（明治九）年、米国聖書協会は、横浜居留地四二番に米国聖書会社日本支社を設立し、アメリカン・ボード宣教師L・H・ギューリックを初代主幹に任命した。ギューリックは聖書普及員の制度を採用し、在任中に完成した新約聖書の頒布に努めた。一八八一年、ギューリックは中国の聖書事業に専念するために離日すると、ルーミスが後任となり、一九一一年に職を辞すまで、三〇年にわたり主幹を勤めることとなった。



N・ブラウン訳『志無也久世無志與』
1879年　日本聖書協会蔵



1882年にルーミスが発見したルーミスシジミ
1882年、ルーミスが千葉県の鹿野山（君津市）で発見。

H・ルーミス（1839〜1920）

ルーミスは多彩であった。自然に親しむことが好きで、考古学にも関心があり、土器や石斧を収集した。『日本蝶類図譜』の著者ヘンリー・J・S・プライヤーと親交があり、蝶の採集を行い、千葉県鹿野山において、シジミチョウ科に属する蝶ルーミスシジミを発見した。彼の次女クララ・デニソン・ルーミスは、横浜共立学園の校長を三五年間勤めた。

ルーミスは朝鮮にも米国聖書協会の支社を設立した。ルーミスと朝鮮との関わりでは、李樹廷（イスジュン）との出会いがある。一八八一（明治一四）年、李樹廷は農業を学ぶために朝鮮から派遣された。農学者の津田仙を訪問した際、李は通された部屋で、漢文で書かれた「山上の垂訓」の掛軸を見て興味を覚えた。やがて、東京帝国大学の朝鮮語講師となった李は、再び津田を訪れてキリスト教の話を聞き、中国語の聖書を受け取った。同じ頃、G・W・ノックスや安川亨牧師の教えを聞くようになり、一八八三年四月、東京露月町教会（現芝教会）で安川から、韓国最初のプロテスタント教会の受洗者として洗礼を受けた。同年五月、李は基督教信徒大親睦会に参加、内村鑑三や新島襄、津田仙らとも交流し、その時撮られた写真には李の姿も見える。

李の受洗を知ったルーミスは、朝鮮語への聖書翻訳を勧めた。李は横浜居留地四二番の米国聖書会社を訪れて、ルーミスと翻訳の仕方について話し合った。また聖書会社の右前にある海岸教会に度々訪れて礼拝を守った。李は漢訳聖書からの翻訳に打ち込み、一八八四年、漢訳聖書に音読口訣記号を付けた『懸吐漢韓新約聖書』（マタイ伝、マルコ伝、ルカ伝、ヨハネ伝、使徒行伝を所収）を、翌八五年には、漢字ハングル交じりのマルコ伝『馬可傳福音書諺解』を横浜で出版した。

旧約聖書の翻訳

一八七六（明治九）年一〇月、東京に在留する各派の宣教師が築地に集まって聖書翻訳につい

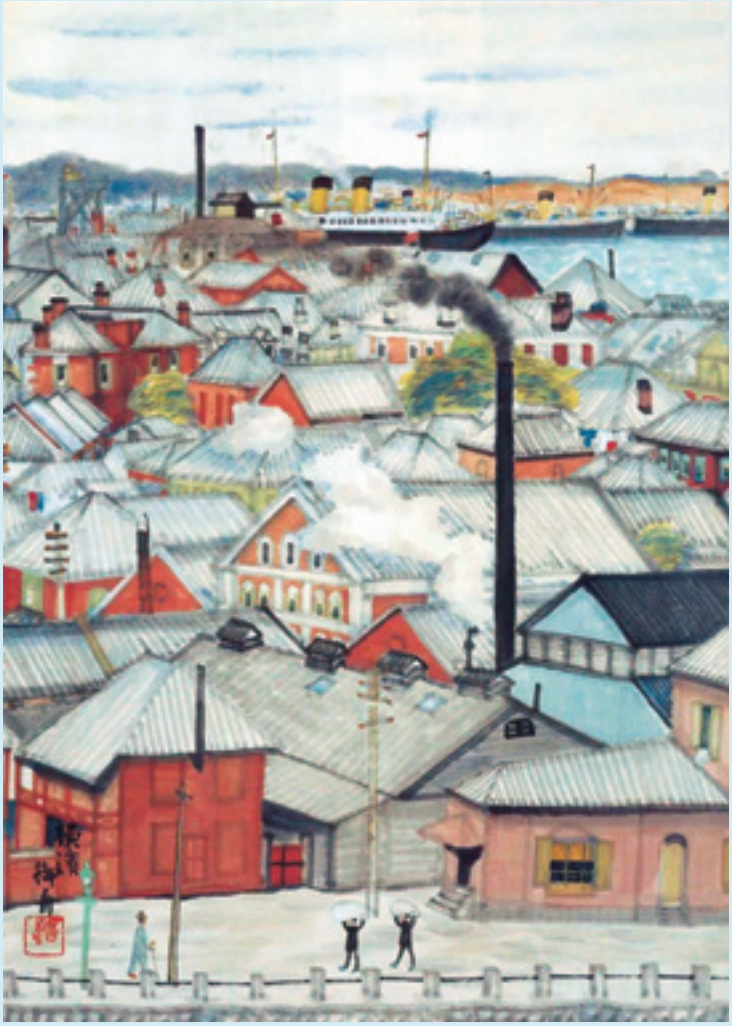
第3回基督教信徒大親睦会 幹部記念写真（1883）最前列中央右に李樹廷、左に津田仙、津田の背後に内村鑑三、左隣に松山高吉、李の背後に新島襄、松山の背後に井深梶之助が映っている。

て協議し、東京翻訳委員会が発足した。だが、委員の人選がイギリス系教派寄りとの批判を受けたため、アメリカン・ボード・ミッションの提案により一八七八年五月、宣教師会議が開催された。旧約聖書の翻訳については、各派から一名ずつ代表者が選出されて聖書翻訳委員会が発足し、一二名の委員が選ばれ、委員長にヘボン、書記にカクランが選ばれた。

一八八二（明治一五）年一月、常置委員会は再改組を断行し、翻訳委員にヘボン、ファイソン、グリーン、フルベッキが選ばれた。だが、グリーンは神戸在住を理由に辞退し、結局三名と松山高吉、井深梶之助、植村正久、高橋五郎ら日本人助手の協力で翻訳が進められた。旧約聖書は八二年から順次出版されていった。一八八六年一一月、ヘボンは自らが関わった旧約聖書の訳業について手紙で次のように述べている。

「旧約聖書はいま詩篇とイザヤ書を除き全部訳了しました。本年中に全部おわると思います。わたしどものこの仕事が終わる前に、もう一度読みとおさなければならぬでしょう。これにはなお一年を要します。ここにとどまってこの仕事をやりおえるか否か、何とも申されません。わたしの健康によるのみです。日本人の助手の助けを得て、わたしが翻訳した旧約聖書の部分は、出エジプト記・民数記・レビ記・申命記・列王記上下・ヨブ記・箴言・伝道の書・雅歌・エレミヤ書・エゼキエル書・ダニエル書・ホセア書・ヨエル書・アモス書・オバデヤ書・ヨナ書・ミカ書・ナホム書・ハバクク書・ゼパニヤ書・ハガイ書・ゼカリア書・マラキ書・哀歌、です。列王記上下・哀歌の一部・ヨナ書・ハガイ書・マラキ書は他の委員が訳し、改訂のためわたしに託されたのですが、わたしの改訂はほとんど新しい訳文になっており、大部分改訂したのです。わたしの翻訳文も、また改訂委員会の他の委員フルベッキ博士とファイソン師による訂正をうけました。」（高橋道男 編訳『ヘボンの手紙』有隣新書）

一八八八（明治二一）年二月三日、東京築地の新栄教会において聖書翻訳事業完成祝賀会が開催された。ヘボンは翻訳作業の経緯を述べ、スピーチを終えると、新約聖書と旧約聖書をそれぞれ手に持ち、重ね合わせて机の上に置いたという。やがて旧約と新約が合本となった聖書が刊行された。ヘボンは新約聖書の六割以上、旧



速水御舟『横浜』1915年　一般財団法人和楽庵蔵
中央付近に福音印刷の赤レンガの建物が大きく描かれている。

約聖書の約四割を翻訳し、旧新約聖書の両方の翻訳に最後まで携わったのはヘボンだけだった。

ヘボンの伝記を書いたグリフィスは、旧新約聖書について「純粋な日本語で、十分な教育を受けていない人にも分かるように、平易な文体で書かれている」と述べ、「やがて数百万の日本人に読まれ、日本の国語を純粋に維持するためにも貢献するであろう」という賛辞を送った。文語訳（明治元訳）聖書は、外国語を日本語に訳すことが定着していない時代になされたもので、この聖書の翻訳は日本の思想史、文学史上に計り知れない影響を与えることになった。

『引照 新約全書』の奥付
1904年　日本聖書協会蔵
発行者 ルーミス、印刷者 村岡平吉、発行所 米国聖書会社、印刷所 福音印刷合資会社とある。

聖書の印刷と村岡平吉の福音印刷

聖書の印刷には、横浜指路教会の長老村岡平吉が経営する福音印刷が果たした役割が大きかった。横浜山手にあったフランス新聞社レコ・デュ・ジャポンや上海の美華書館で印刷技術を学び、横浜製紙分社で職工として腕を磨いた平吉は、一八九八（明治三一）年、横浜山手八一番にキリスト教書の印刷製本会社福音印刷を創業した（一九一二年、一〇四番に移転）。福音印刷の事業の功績は何といっても聖書の印刷であった。同社は日本語聖書の印刷だけでなく、朝鮮、台湾、インド、タイ、シンガポールなどのアジア諸国に印刷製本した聖書を輸出供給し、平吉は「バイブルの村岡」として名を馳せた。平吉と夫人ハナとの間には、六男二女が与えられ、村岡家の人々は、皆洗礼を受けた。

事業拡大を図る福音印刷は、一九一三（大正二）年には神戸支社を、一九一四年には東京（銀座）支社を開設し、東京支社は三男の儆三（けいぞう）が任された。築地明石町の日本基督教興文協会社員の安中花子が福音印刷会社を訪れるうちに儆三と出会い、大恋愛の末、結婚したのはこの頃であった。一九二二（大正一一）年、村岡平吉が死去すると、英国に留学して印刷技術を学んだ五男の斎（ひとし）が横浜の本社を継いだ。だが、翌二三年の関東大震災で本社の社屋が倒壊し、社長の斎を含む多くの従業員が犠牲となり、その後会社の再建はならなかった。一方、夫の儆三とともに震災を生き延びた花子は、モンゴメリの『赤毛のアン』やオルコットの『若草物語』などを翻訳し、翻訳家、児童文学者として大きな足跡を残すことになる。

ヘボンの日本における最後の使命は立派な教会堂を建てることであった。彼はミッション本部に手紙を送り、教会堂建築のために奔走した。尾上町に建てられた教会堂は、ヘボンの母教会Shiloh Churchにちなんで指路教会と名付けられた。ヘボンは同年一〇月に日本を離れるまで三三年間、一貫して横浜に住み続け、聖書翻訳に半生を献げ、横浜の教会の発展に寄与したのだった。指路教会は関東大震災で倒壊後、現在の教会堂に再建されて今日に至っている。

ヘボンの携わった教派を超えた聖書翻訳事業は、日本聖書協会の活動の柱として、その後、大正時代の一九一七年の新約聖書の改訂（大正改訳）、戦後の一九五五年の口語訳、一九八七年の新共同訳、二〇一八年の聖書協会共同訳へと受け継がれ、そして未来の翻訳事業へとつながっていくだろう。

参考文献　岡部一興『ヘボン伝――和英辞典・聖書翻訳・西洋医学の父』有隣新書、二〇二三年

岡部一興　1941年東京都生まれ。弘前学院大学客員教授、横浜プロテスタント史研究会代表。著書に、『山本秀煌とその時代』、『長谷川誠三』（いずれも教文館）、『ヘボン伝』、共著に『横浜開港と宣教師たち』（いずれも有隣新書）など。

芹澤光治良の「聖書物語」
芹澤光治良と聖書

鈴木範久
すずき のりひさ 立教大学名誉教授

芹澤光治良
1943年頃
芹澤光治良記念館
「光治良の欧州体験（1）」より

『孤絶』の世界

今から七〇年も昔の話になる。結核で学校を退学し、明けても暮れても天井を見詰めて、ひたすら安静療養で日を送る時期があった。まだ新薬は登場していなかった。

安静時間の間には読書も可能であったが、体を横たえたままであるから、おのずと読書の対象となる書物は、軽くて仰向いたまま手で支えられるものでなくてはならない。そのように限られた条件のなかで、未だに記憶に残る愛読書が、芹澤光治良の『孤絶』であった。

『孤絶』は、文学作品と言っても、作者芹澤の体験物語とみてもよい。フランスのパリに留学中の主人公が、結核にかかり、スイスの高地で送る療養生活の話である。日本の高原の療養所に入れない自分にとり、まさに高嶺の花のような療養生活であった。その療養所はカトリックによって経営され、構内にはチャペルもあって、毎時鳴らす鐘の音も聞こえた。私は、少なくとも本書の読書の間だけは、同じような入所者のひとりになったような気がして、その世界に浸ることができた。

「聖書物語」

実は芹澤は、沼津の天理教布教師の家に生まれた。しかし、第一高等学校、東京帝国大学、農林省へと歩む間は、天理教とも信仰とも無縁の人生を歩んできた。それが、戦後の一九四六（昭和二一）年、雑誌『新婦人』に突然「聖書物語」の連載を開始したのである。内容は聖書の四福音書に

もとづくキリスト伝だった。

「物語」は、全体的には現代語により書き直されているが、ところどころに聖書からの引用文がみられる。たとえば、イエスの生誕を扱った第一回の最後には、「マリアの頌」と題して聖書ルカ伝第一章四七～五五節の引用がある。そこには、一九一七（大正六）年に刊行された新約聖書「大正改訳」の本文が、忠実に引用されている。これにより、芹澤の「聖書物語」が、大正改訳聖書の特に四福音書に基づく作品であり、自身もそれを愛読していたことも明らかである。ただ、戦後の混乱期のためか、第六回分以降、どこまで連載が継続されたのか、残念ながら、これを明らかにする雑誌自体の所在が不明である。

信仰の覚醒

また、同時期に芹澤は代表作『巴里に死す』を著しているが、そのなかで、ヒロインの出産時には天使の祝福が描かれている。

しかし、芹澤の「聖書物語」を読むとき、そこには本人の信仰の大きな飛躍を感ぜずにはいられない。実を言うと、筆者には天理教徒の親友がいて、時折、芹澤と天理教との関係についても語る時があった。芹澤が教祖伝を書き始めたときに、さっそく、その友人に感想を聞いたところ、彼は肯定的だった。友人は、大学の教員の定年後、イエの宗教であった天理教分教会の跡を継いでいた。今回、本稿の執筆にあたり、その友人（今は故人）こそ、芹澤の人生の大きな転機に与った「若い宗教学者」（芹澤著『神の微笑』）であるとの確信をえた。

芹澤の信仰世界への接近には、さまざまな理由や原因があるであろう。筆者には、右に述べたように、大正改訳新約聖書に基づき、しばらく雑誌に連載を続けた「聖書物語」の執筆が、その契機の一つであったように思われてならない。

小説『孤絶』の初版　1943年刊

「聖書物語」第一回　『新婦人』1946年6月

エッセー 48

日本のキリスト教会の未来のために

清涼院流水

YouTubeトーク番組「東方の３おじさん」

かつての筆者は、父方の祖母の代まで毎年1月10日の「福男選び」で知られる兵庫県の西宮神社の宮司の家系であった自分のルーツを意識し、神社に毎日お参りを欠かさない、神道への信仰１００パーセントの人間でした。転機が訪れたのは２００９年、35歳の節目に長崎県大村市の方から日本最初のキリシタン大名・大村純忠の小説執筆を依頼されたことです。当時、聖書やキリスト教の知識がほぼゼロであった筆者は、キリシタン大名の小説をなんとか形にするために10年近い歳月を費やし、学習過程で聖書に魅了され、その関心は、いつしかキリスト教への信仰に育っていました。

キリスト教を学ぶ過程で思い返したのは、筆者がプロテスタントの西宮中央教会付属の「すずらん幼稚園」に通い、イエス・キリストの降誕を幼児たちが演じる「聖劇」では「語り部」の役を与えられたことでした。神道の家に生まれた出自を小学生の頃から強く意識する前に、実は、キリスト教の精神の種が自分の中に蒔かれていたのです。すべては神様のお導きであったと確信した筆者は、最初はプロテスタントで受洗するつもりで学んでいましたが、求道中に奇跡のようなお導きが重なり、２０２０年7月20日にコロナ禍のただ中でカトリック信徒として受洗するに至りました。

すべて必然だったと思えるのは、最初にプロテスタントの学習から始めたおかげで筆者はプロテスタントへの偏見も抵抗もいっさいなく、様々なプロテスタントの友人に恵まれた、ということです。「キリスト新聞」編集長の松谷信司さんや、聖書エッセイコンテストの選評委員でご一緒している歌人の林あまりさん、また、『上馬キリスト教会の世界一ゆるい聖書入門』など斬新なキリスト教書籍を連発しているＭＡＲＯさんとは、イベントでの共演がきっかけで、良い信頼関係を築けています。

２０２３年12月から、松谷さん、ＭＡＲＯさんと筆者の３人で『東方の３おじさん』というYouTubeのトーク番組を始めることになったのは、そのような経緯でした。

筆者が朝日新書から『どろどろの聖書』、『どろどろのキリスト教』、『どろどろの聖人伝』という３冊のキリスト教書籍を刊行し、驚かされたのは、ノン・クリスチャンの読者からの大きな反響でした。聖書やキリスト教を初めて理解できた読者からの喜びの声が、次々に寄せられたのです。知っているようで知らない聖書に多くの日本人が強い知的好奇心を持っていますが、そうした関心を満たしてくれる本やメディアが今までは見つかりにくく、キリスト教が信仰の選択肢にすら入らない時代が続いていました。まずは知っていただくことで、初めて選択肢に加わります。

トーク番組『東方の３おじさん』では、松谷さんはプロテスタントのリベラル、ＭＡＲＯさんは福音派、筆者はカトリックという立場の違いを活かして、ノン・クリスチャンの方たちにもキリスト教に興味を持っていただけそうな楽しい雑談を続けています。これまでノン・クリスチャンとクリスチャン、プロテスタントとカトリックのあいだでの交流は難しく、分断もありましたが、情報開示によってその壁を取っ払い、まずは風通しを良くすることが日本のキリスト教会の未来につながることを確信しています。『東方の３おじさん』をご覧いただき、「こういう雑談なら、確かに、ノン・クリスチャンの方たちにも楽しんでいただけるかも」と感じてくださったなら、ぜひチャンネル登録と高評価をお願いいたします。そして、「そういう楽しい活動には私も参加したい」という方がもしいらっしゃいましたら、コメント欄にご意見やご要望などを書き込んでいただけると励みになりますし、必ず返信いたします。

少子高齢化の人口減少社会が加速していますので、今のまま何もしなければ、日本のキリスト教会は近い将来、衰退し、その多くは消滅します。絶望の未来を回避し、逆に、ここから日本のキリスト教会の黄金時代を始めるには、まずは意識改革です。そんな大志を抱いて、『東方の３おじさん』は、輝く星を目ざして旅立ちました。

清涼院流水（せいりょういん りゅうすい）
作家、英訳者

箴言に見る 聖書協会共同訳の特徴

飯　謙
いい　けん
神戸女学院大学名誉教授・院長

箴言と知恵文学

「聖書協会共同訳」の特徴を箴言の訳文から考えたい。箴言は知恵文学に属する。かつてゲアハルト・フォン・ラートは古代イスラエルに救済史を中心に据える神学について論じた際に、知恵の伝統をそれとは別の流れとして指摘している（例えば『旧約聖書神学I』荒井訳、五八四ページ以下）。確かに知恵文学では出エジプトやシナイにおける律法の授受といった五書の中核的な伝承には触れられず、もっぱら親子や街中の光景など、日常的な場面に神の秩序を見出そうとする姿勢が感じられる。その理解に立つならば、箴言には日常性の中に神の働きを味わおうとする、旧約を担った人々の素朴な信仰を読み取れると思える。

新共同訳と聖書協会共同訳の違いを単純化して語ることはできないが、あえて乱暴に性格づけると、前者が「動的等価訳」（いわゆるナイダ理論）の影響を受けて文脈に沿った意訳を印象づけたのに対して、後者はスコポス理論に準拠して礼拝にふさわしい訳文を心がけつつ直訳を基底とした、と説明できようか。双方とも個性ある翻訳方針であり、良質な邦訳を提供してくれている。小稿では、箴言について二つの邦訳聖書を比較し、「人々の素朴な信仰」の読み取りを試み、合わせて聖書協会共同訳の特徴を考えたい。

行動の主体の描き方

「父の諭し（三）」と小見出しがつけられた箴言第三章に目を向けたい。まず一―二節は子に向かって神の意志にかなう人生のため親からの教訓を大切にせよとの短い導入を述べ、三節から最初の格言（箴言）が綴られる。聖書協会共同訳の三節前半は「慈しみとまことがあなたを捨てることはない」と訳す。これが直訳である。一方、新共同訳は「慈しみとまことがあなたを離れないようにせよ」。新共同訳の場合、行動の主体（動作主）は明示されないが、当然この箴言を向けられた「子」（あなた）だろう。その行動として、神を表す「慈しみとまこと」が自分から離れぬよう日頃から心がけよとの進言と解せる。しかし原文の動詞はアーザブ（捨てる）の三人称複数未完了形に二人称単数接尾辞をつけた形態で、直接の意味合いは「彼らはあなたを捨てない」である。ここで「彼ら」に該当するのは「慈しみとまこと」以外になく、これが動作主となる。二つの訳文の意味は現代の日本語でほとんど変わらないと思えるが、双方は人の行動と判断の位置づけにおいて大きく異なる。すなわち、新共同訳は

『歴史聖書』《第2巻口絵》
1360~1370年頃
ポール・ゲッティ美術館蔵
箴言冒頭の口絵。挿絵には、レハブアムに教えるソロモン王（上段左）、ソロモンの裁き（上段右・下段左）、三人の兄弟の正当性を試すソロモン（下段右）が描かれている。

「慈しみとまこと」を目的語として、人が操作可能なものと捉え、その実践を勧める。一方、聖書協会共同訳では神の臨在を内含する「慈しみとまこと」が人を捨てることはないと述べ、人間の努力や工夫を越えた領域から来る神の働きかけを強調する。「人を義としてくださるのは神」（ローマ8・33）だと知らせているのだ。

動詞のニュアンス

続く小見出し「知恵の勧め（二）」の起句となる箴言三章一三節にも同様の響きを読み取ることができる。新共同訳「いかに幸いなことか／知恵に到達した人、英知を獲得した人は」、聖書協会共同訳「幸いな者とは知恵を見いだした人／英知にあずかった人」。これも後者が直訳に近い。新共同訳が「到達」と訳したマーツァーの原意は「発見」という知覚認識に関わる語彙であって、移動に関わるそれではない。原文のマーツァーには、何かを自力で達成するというよりも、自力を越える偶発性による出会いといったニュアンスがあると感じられる。同じく「獲得」と訳されたプーク（未完了形）も、箴言における他の用例（八・三五、一二・二、一八・二二）の目的語が、いずれも「主の喜び（にあずかる）」である。これは人が自力で獲得し、入手できるものではない。ここに示した一三節の二つの動詞についての観点からは、新共同訳のニュアンスが（箴言三章三節もそうであったが）原文に意図された神の関与の度合いを低くしていると感じられる。

同三章一九節は創造信仰に言及した段落を締め括る大切な詩行だが、新共同訳では「主の知恵によって地の基は据えられ／主の英知によって天は設けられた」、聖書協会共同訳「主は知恵によって地の基を据え／英知によって天を定められた」と主語と動詞の形態が異なる。もちろん、二つの邦訳の間にあるのは受動態（据えられ／設けられ）と能動態（据え／定める）の違いであって、原文との間に認められる同質性、あるいは機能的な等価性は明らかで、指し示す内容は変わらないとの反論があるかもしれないが、後者は明確に「主」を主語とし、能動態動詞の完了形を記す原文に沿った翻訳を提供している。「知の基」や「天」は、主が創造したのであって、大自然の営みによって生成されたものではない。小さな変化かもしれないが、聖書協会共同訳の箴言の訳文は日常のさまざまな場面を題材としながら、聖書の民の「素朴な信仰」を簡潔に教えてくれている。

第2回 聖書エッセイコンテスト 入選作品

大賞

神様の計画

すず

10年前の冬。母がこの世を去ったのは、雪の降り積もる静かな夜だった。

母は敬虔なクリスチャンで、父と私も母に連れられて教会へ通う内に、神様を信じるようになった。教会まで母と手を繋いで歩いた道のり。繋いだ手から感じた母の温かさ。覚えたての讃美歌を歌う私の横で、嬉しそうに微笑む母の姿。そのひとつひとつの思い出が、今も宝物のように私の胸に残っている。

私が中学生の頃から、母は病院に行くことが多くなった。「あなたは知らなくていいから。心配しないで、勉強してなさい。」と詳しい話は聞かせてくれなかったが、それが重い病気であることくらい、私にだってわかる。いつも寡黙な父が、夜中にひとり涙を流していた。その涙が、一層事の深刻さを物語っていた。

母は乳がんだった。見つかった時にはかなり進行しており、母の希望もあって手術は行われなかった。長引く入院生活の中でも、母はいつも聖書を読み、祈っていた。

「なんで母が?」「ねえ神様、いるんでしょう?なぜ助けてくれないの?」そんな気持ちでいっぱいだった私に、母が教えてくれた聖句がある。

『主は言われる、わたしがあなたがたに対していだいている計画はわたしが知っている。それは災いを与えようというのではなく、平安を与えようとするものであり、あなたがたに将来を与え、希望を与えようとするものである。エレミヤ書29・11』

「お母さんもね、時々怖くなるの。あなたの成長をずっと近くで見ていたい。もっと一緒に色んな所に行って、色んな話をしたい。だけど、それが出来なくなるんだなあって。でもね。神様には私たちが想像できないような素晴らしい計画がある。だから、大丈夫。」

真っ白な病室で、西陽に照らされて聖書の言葉を語る母の横顔は、美しかった。抗がん剤治療の副作用で髪の毛が抜け落ち、ふっくらしていた頬もやつれた母。それでもあの日の母は、なんだか絵画みたいだな、と幼いながらに感じたのを覚えている。

高校3年生の冬、センター試験の1週間前の夜だった。母は静かに息を引き取った。試験勉強にも身が入らず、ただ涙に暮れるばかりの私に父が渡したのは、生前母が遺した祈りのノートだった。私が生まれる前から、ずっとこのノートに心の内を書いて祈っていたんだと父は語った。ページをめくると、私のこと。父のこと。教会のこと。人のことばかりで、自分の病気のことは後回し。本当にお母さんらしいな、と思わず笑みが溢れた。私はこんなにも愛されて、祈られていた。それだけでいい。大好きな母との思い出と、大好きな聖書を支えにして、前を向こう。素直にそう思うことができた。

それから無事第一志望の医学部に合格し、今は医師としてがんと闘う患者さんと日々向き合っている。先日、患者さんのお子さんに「私も先生みたいなお医者さんになりたい!」と嬉しい言葉をかけてもらった。ねえお母さん、これも神様の計画かな?

●選評

すずさま、大賞おめでとうございます。聖書のことばを語るお母さま。絵画のように美しく、いまも生き生きとお心にあるのでしょう。祈りのノート、なによりの宝物になりましたね。ラストがあまりに素晴らしくて、本当に主のこんなお導きがあるのだなあ、と胸がいっぱいになりました。

（林あまり）

信仰に導いてくれた敬虔なクリスチャンのお母様が重い病気になった時、若き日の筆者は絶望し、神様へ不信の念も抱きます。ところが、病床で「神様の計画」をひたすら信じ続けたお母様が遺したノートには、他者のための祈りの数々が記されていました。お母様の清らかな想いは、打ちひしがれていた筆者を再生させます。今では医師としてお母様を奪った病気と闘っていらっしゃる筆者の姿に、「神様の計画」を感じずにはいられません。

（清涼院流水）

準大賞

隣のバイブル

fuminaru

職場の休憩室で、最後のドーナツを同僚に譲ってしまった。差し入れのクリスピー・クリーム・ドーナツ。痩せ我慢だと思われたくないから、余裕の笑みを浮かべて私はスマホに戻る。ドーナツを頬張る同僚の顔は絶対見ない。いや見られない。そのとき隣でバイブルが言った。

「受けるより与えるほうが幸いです」

ああそうですか。

電車を降りる時、男がぶつかってきて私は派手によろけた。絶対わざとだろ？　ぶつけ返してやろうか？　そのとき隣でバイブルが言った。

「悪をもって悪に報いないように気をつけなさい」

「あなたの敵を愛しなさい」

「右の頬を打つ者には、左の頬も……」

いやそれは無理。

私はその男の背中を見ないようにして、改札に向かった。バイブルはしばしば説教臭い。優等生みたいだ。それも学級委員でもやっていそうな。

バイブルはいつも隣にいて、事あるごとに話しかけてくる。

「あすのことはあすが心配します」

「さばいてはいけません」

「狭い門から入りなさい」

いちいちタイミングが良くて、ちょっと鬱陶しい。

そんなバイブルに心底嫌気が差したのは、私の教会が解散した時だ。長年仕えた教会があっさりなくなり、私は行き場を失った。どう生きるべきか分からなくなった。

「できるだけあんたに従ってきたのに、なんでこんな目に遭うんだよ？」

「……」

大事な時にバイブルは答えない。こんちくしょう。私は教会に行かなくなり、祈らなくなった。聖書は本棚の一番目立たない一角に追いやった。それ以来、バイブルは話しかけてこない。そのうち存在自体を忘れた。

職場の休憩室で、最後のドーナツを同僚に譲る。小さな恩でも売っておけば、いつか有利に働くかもしれないからだ。「情けは人のためならず」とはよく言ったもの。

教会と関係のない経験を色々した。キリスト教と関係のない本を沢山読んだ。数多くの風景と言葉が頭の中に蓄積された。聖書の言葉は隅に追いやられ、それがあったことさえ忘れた。

ある日、友人に誘われて教会の礼拝に行った。最後に「主の祈り」を歌う。教会で仕えていた頃、大好きだった曲だ。前奏を聞きながら、十年くらい経っているのに歌詞も旋律もちゃんと覚えていることに気が付いた。思わず声を上げて歌っていた。「国と力、栄えは……」歌いながら、胸が締め付けられる。なんだこれ。

頌栄が終わってパイプ椅子に座ると、隣でバイブルが言った。

「平安があなたにあるように」

イエスと弟子たちが朝食を取る、あの湖畔の風景が胸のうちに広がる。朝の日差し。魚の焼ける匂い。イエスの笑顔。私は全部覚えている。

「いきなりなんだよ、今までどこにいたんだよ？」私はバイブルに言う。

「世の終わりまで、あなたとともにいます」

こんちくしょう。私は顔を伏せた。

●選評

うまいエッセイだなあと読み進めていって、びっくり。教会が解散！それは…辛いなんてものではないですね。最後のところで、ああ、良かったと思いましたが、決してメデタシメデタシの話ではないとしみじみ思いました。バイブルが「言った」という書き方に臨場感があります。私もそのようにバイブルに耳を傾けたい、と思いました。

（林あまり）

自分の隣にあるバイブルを擬人化し、なにか事件が起きるたびにバイブルが説教するように語りかけてくる着想が、とてもユニークです。個性すら感じられるうまい描き方なので、バイブルがいのちを持ち、愛すべきキャラクターになったように思えてきます。そんなバイブルといったんは別れることになったものの、歳月を経て再会した時に迎えてくれる様子にも一貫した性格がきちんと描かれていて、見事な表現力に感嘆しました。

（清涼院流水）

準大賞

幸い！ 心貧しき、私の夫

ヨグソミネバリ

「心の貧しい人々は、幸い。天の国はその人たちのもの」マタイ5・3

クリスチャン歴＝人生の半分。生業もキリスト教関係。そんなキリスト教漬けの私が納得できずにいた聖句。

特に、私の夫・カッちゃんを見て「心貧しい者の、どこが幸いよ」とつぶやいていた。

カッちゃんは教会の牧師。

今年4月に発達障がい（ASD／ADHD）と診断を受け、こころのクリニックに通院している。

病院からもらった漢方薬を毎日飲んでいる。心が不安定になった時に飲む薬も持っている。

カッちゃんのお父さんは牧師。おじいさんも、ひいおじいさんも牧師。

日本における女性牧師の草分け的存在として1920年代に活躍した親戚もいる。

でも、カッちゃんは自分が「キリスト教版・華麗なる一族」だと誇ることはない。

牧師家庭に生まれ育ったことで傷つき、悩んできたから。

カッちゃんは教会育ちで（当時は分からなかったけれど）発達障がいがあって、ちいさい時から自分が周囲と違うことに気づいていた。

牧師の長男なのだからと親に諭され、自分のやりたいことを我慢したり進路を諦めたりもしたという。

カッちゃんがポツポツと口にする思い出には、大人の私が聞いて怒りに震えるような、クラスメイトたちからの酷いいじめ体験も多い。

カッちゃんは牧師になるための学校でも「鈍臭い、要領が悪い」とからかわれていた。

緊張してつっかえながら話す姿を見て「本当に牧師になるのかよ」といじった同級生たち。

10年以上経った今でも、私はあいつらの顔を忘れない。

カッちゃんを見下す態度を取っていた人たちが、今は礼拝で「心貧しい者は幸い」と偉そうに語っていると思うと、胸クソ悪い。

心貧しき者の、何が幸いなのだ！

不器用なカッちゃんより、世渡り上手な連中の方が牧師として評価されているではないか！

だけど、カッちゃんと結婚して聖書の意味に気づいた。

カッちゃんは他人を悪く言わない。人から決めつけられる苦しみを痛いほど知ってるから。

カッちゃんは他人の悩みを否定しない。「言い訳だ、怠けだ」と責められ落ち込んできたから。

カッちゃんの長年の友人たちは、心が柔らかい。生きづらさを抱える人もたくさんいる。

カッちゃんの周囲には、安心して弱音を話せるあたたかい雰囲気がある。

優しい世界が広がっていく。

キリスト教業界や教会の中では、話し上手で有能な牧師が評価されるかもしれない。

だけど、聖書はそうじゃない。

イエス様は、カッちゃんみたいに心の弱りを覚える人に語りかけたのだろう。

「幸い！心が弱り切った者！あなたたちから、神様の思いは広がっていくんだよ」

「あなたたちの感性や命は、この世で希望の光になれるんだよ」と。

カッちゃんを嘲笑したかつての同級生たち！

あんたたちは言葉が巧みで、さぞかし調子よく礼拝で語るのでしょう。

私は世間がどう言おうと、聖書の言葉を信じる。

「心弱り切った者たちから広がる天の国、神様の思いが染み渡る世界」を祈り求める。

●選評

怒りの向こう側の、優しい世界に辿り着いた方なんだなあ、と味わい深く読ませていただきました。こんなに愛される「カッちゃん」も、優しさにあふれた方なのでしょう。試練のなかで、みことばのそれまでと違った理解が示されたこと、豊かな恵みですね。（林あまり）

代々牧師という家庭に育ったカッちゃんは、幼い頃から周囲に傷つけられ、牧師になるための学校では同級生たちにからかわれながらも、決して他人を悪く言わず、否定せず、周囲に優しい世界をつくり出します。そんなカッちゃんと結婚した筆者は、かつてカッちゃんを傷つけた人たちへの憤りを抱えながら、世渡り上手の牧師たちではなくカッちゃんこそが聖書にある「心貧しき幸いな者」だと信じ、力強いメッセージが胸を打ちます。（清涼院流水）

第2回 聖書エッセイコンテスト 授賞式

特別対談「聖書の魅力について考える」林あまり氏×清涼院流水氏

大賞発表のようす
「神様の計画」
すずさん

特別対談
トークイベントの
ようす

2024年1月27日（土）午後、結果発表イベントが銀座教会5階会議室を会場として、リアルとオンラインで行われました。大賞受賞のすずさんはご欠席ながら「天国で母も喜んでくれているかな、ちょっと恥ずかしがっているかな、などと思いつつ、母との思い出を振り返っています。」と、事前にいただいた喜びのコメントを読み上げました（大賞受賞は授賞式後に通知）。準大賞2作品は、fuminaruさん、ヨグソミネバリさんでした。大賞1点、準大賞2点、佳作5点と、追加で設定された、特別賞のあまり賞、流水賞各1点、作者の方々10作品を表彰しました。

その後、キリスト新聞社の松谷信司さんが司会を務め、歌人で演劇評論家の林あまりさん、作家の清涼院流水さんお二人による対談が行われました。応募作品全体の講評と、お二人それぞれが考える聖書の魅力とは何か、聖書の魅力はどう伝わっているのか、終始ユーモアと熱量たっぷりに語っていただきました。

特別対談のもようは、日本聖書協会YouTubeチャンネルに公開しています。

佳作

だから私は、バイブルが好きだ　はとむぎ

苦しみに勝る希望があるということ。米村かなこ

私は宗教二世　kim202235

ヒーローに会いに行く　吉國選也

信者ではないけれど　すずきまなみ

あまり賞

わたしの光　おおやまゆみ

流水賞

神様のことばと気迫　伊藤　走

第2回聖書エッセイコンテスト応募合計58点

第3回 聖書エッセイコンテスト 開催決定

応募要項の発表は5月以降の予定です。
日本聖書協会公式ウェブサイト特設ページをご覧ください

https://www.bible.or.jp/bibleessaycontest.html

日本聖書協会150年に向けて

日本聖書協会（JBS）の働きは、
スコットランド聖書協会が横浜に日本支社として
北英国聖書会社を設置した1875（明治8）年に遡ります。
続く1876年に米国聖書協会、英国聖書協会が日本支社を設立することにより、
現在の日本聖書協会の基礎が築かれました。2025年には1875年の日本における
聖書普及事業の開始から150年目を迎えます。
日本聖書協会は「聖書をすべての人に（Bible for Everyone）」という
ミッションを果たしながら、聖書を通して神による希望・勇気・救いを伝えてきました。
来る2025年に向け、日本聖書協会は、これまでの歩みを振り返り、神に感謝を献げ、
わたしたちがこれからの激動の時代を切り拓いていく力を得るために、
「JBS150年記念事業」を企画していきます。
皆様のご協力とお祈りを心からお願い申し上げます。

2024年1月
一般財団法人日本聖書協会
理事長　石田　学
総主事　具志堅　聖

「JBS150年ロゴマーク」について

日本聖書協会が事業開始150年を迎えるにあたり、2024年から「JBS150年ロゴマーク」を使用することとしました。四角いフレームは「永遠に変わらない御言葉」を表し、フレームには「十字架」が組み合わされています。ペトロの手紙一1章24-25節が添えられることで、日本聖書協会がこれからも聖書普及活動の最前線を切り拓いていくという強い決意を示します。

「JBS150年記念事業」の詳細については、日本聖書協会ウェブサイトで、今後、逐次、お伝えします。

海外支援のご報告・お願いと、能登半島地震支援に向けて

「これまでに書かれたことはすべて、私たちを教え導くためのものです。それで私たちは、聖書が与える忍耐と慰めによって、希望を持つことができるのです。（ローマの信徒への手紙15:4）」

日頃より日本聖書協会の働きを覚え、祈り、お支えくださり、誠にありがとうございます。海外の聖書普及のためにご支援くださり感謝申し上げます。とりわけ先が見えづらい戦争、また国内外を問わず発生する自然災害に、時として心が闇に覆われそうになりますが、聖書から忍耐と慰めをいただき、希望を持って歩みたく願っております。主にある教会の復興、そして失われた聖書の供給は重要な課題です。

ウクライナ聖書支援と災害緊急支援の報告

ロシアの侵攻を受けているウクライナのために、2022年3月に受付を開始した「ウクライナ聖書献金」は2023年度（2022年11月～2023年10月）に2,536,775円をお寄せいただきました。その内、ウクライナ聖書協会へ1,494,500円を同年度内に送金いたしました。

これを差し引いた1,042,275円は2024年度のウクライナ支援に加算いたします。引き続き、彼の地のためお祈りとご支援をお願い申し上げます。

贈られた聖書を手にするウクライナの子ども

奪還後のヴェリキ ブルルクにてパンとともに聖書を

最前線の町で働く医療関係者に救援物資と聖書を届けるウクライナBSの副総主事たち

東部ドネツク州シベルスク

ウクライナ聖書協会	1,494,500円
トルコ地震災害	3,395,504円※
スロベニア洪水	158,417円
総額	5,048,421円

※トルコ地震災害献金の受付は、ひとまず終了いたしました。お祈りとご支援を感謝申し上げます。

能登半島地震被災教会支援献金

2024年元日に発生した能登半島地震において被害を受けた教会と信徒の皆様、ご関係の全ての方々に衷心より御見舞い申し上げます。日本聖書協会は、支援献金を募っております。お寄せいただいた献金は、この地震によって被災された教会の、御言葉を伝える働きを支えるため大切に用いさせていただきます。具体的な支援の内容とご報告は、弊協会ウェブサイトに随時掲載してまいります。

ご献金の方法

郵便振替：00160-2-18410
口座名：（一財）日本聖書協会 ／ ゆうちょ銀行〇一九支店（当座）0018410
（通信欄に「能登支援」と明記してください）
銀行振込：三井住友銀行 京橋支店（普通）6552744
口座名：（一財）日本聖書協会
（送金者のお名前の前に「ノトシエン」と付けてください）

コンビニ振込やクレジットカードによるご送金も承ります。ウェブ上（本欄の最後に記載のURLかQRコード）の「**コンビニ振込で献金する**」からお申し込みいただければ、専用振込用紙をお送りいたします。クレジットカードも同様に「**クレジットカードで献金する**」からお申し込みください。

https://www.bible.or.jp/collection/domestic_disaster.html

ソア52号発行によせて

総主事 **具志堅　聖**
General Secretary
Gushiken Kiyoshi

2023年10月、オランダ王国エグモントにおいてUBS世界大会（United Bible Societies World Assembly 2023）が開催されました。147カ国の聖書協会の代表を含み世界中から約390名が集い、講演会・会議・座談会・分科会、そして総会の時を持ちました。世界大会のテーマは「神のことば：世界の和解のために（God's Word : Reconciliation for the World）」でした。日本からはJBS理事会代表として小海光理事会書記（ウェスレー財団・代表理事）と総主事の具志堅が参加しました。

前回の2016年5月にアメリカ合衆国フィラデルフィア市で開催された世界大会から7年5カ月が過ぎ、UBS内外でさまざまな変化が起きました。当初想定されていなかったことの中で、最も大きなことは「新型コロナウイルスによるパンデミック（The COVID-19 pandemic）」でした。その影響で3年間にわたり多くのプロジェクトが中止となり、さまざまな聖書協会では過去に例のない規模で財政難に直面するという事態が起きました。この世界大会も当初アフリカのガーナ共和国で開催予定でしたが、急遽オランダに変更となりました。

また、ロシア・ウクライナ情勢、イスラエル・パレスチナ情勢などの国家的紛争が起き、残念ながら世界大会に参加することができない国々もありました。さらに、これまでリーダー的存在であったアメリカ聖書協会は大きな変化の中に置かれていて、積極的な参加ができませんでした。このような複数の課題を抱えながらでしたが、多くの国々の代表者が集まることができたことは意義深いことでした。世界大会において、それぞれが経験した苦しみを分かち合い、共に祈りの時を持ち、今後の取り組みを協議することができたことは大きな恵みでした。

これからの6年先を見据えて、次の7つの課題に取り組むことを決めました。それらは①「聖書翻訳（Bible Translation）」、②「印刷された聖書の頒布（Printed Bible Distribution）」、③「聖書活用（Bible Engagement）」、④「ディアスポラ共同体への奉仕（Serving Diaspora Communities）」、⑤「地球環境への配慮（Creation Care）」、⑥「デジタル変革（Digital Transformation）」、⑦「使命遂行のためのレジリエンス（復元力）（Mission Resilience）」でした。過去からの継続課題と、新しい課題があり、それらの調査・研究をしていきます。どれも重要な課題です。何らかの形で今後その詳細を分かち合いたいと思っています。

UBS総主事のギバー氏と面会し、2025年10月1日に予定している日本聖書協会150年記念イベントへの出席依頼を、小海氏と私から正式に行いました。さまざまな動きが日本の内外にありますが、本誌を通して発信していきたいと思っています。神の言葉（福音）が世界中くまなく宣べ伝えられますように。

編集後記

今号の表紙イラストは横浜開港資料館所蔵の1894年頃の横浜外国人居留地60番から80番（現在の中華街東門）付近の彩色写真を基に描いていただきました。左手前の建物の看板にはっきりとBIBLE HOUSEと書かれています。道には人力車やガス灯、着物を着ている人など、当時の生活様式が垣間見えます。

今号の特集は「横浜の米国聖書会社ゆかりの人々　ヘボン・ルーミス・村岡平吉」を横浜指路教会長老の岡部一興氏に執筆いただきました。

日本聖書協会は、聖書普及事業の開始から来る2025年に150年目を迎えます。記念式典や記念事業を通してさらに聖書がすべての人々に届けられるよう努めてまいります。

ご意見、ご感想を広報部（info2@bible.or.jp）までお寄せください。

ミックス
紙｜責任ある森林管理を支えています
FSC® C020167
この印刷物はFSC® 認証紙を使用しています。

新・歴史接写 3

聖書館ビル創建当初の面影
有翼の牛のレリーフ

有翼の牛のレリーフ
聖書館ビル外壁に現在唯一残るレリーフ

1951年頃の聖書館ビル
松屋通り側の外壁に「人」、ガス灯通り側の外壁に「獅子」のレリーフが見える。

1968年頃の聖書館ビル
建物の手前角の付近に「人」、教文館との境目付近に「鷲」のレリーフが見える。

聖書館ビルの職員通用口（ガス灯通り沿い）の頭上に、翼のある牛のレリーフが鎮座している。同じ建物にある教文館を足繁く訪れることがあっても、このレリーフの存在を知っている人は少ないかもしれない。

この有翼の牛のレリーフは、福音書記者のルカのシンボルである。すでに古代末期には、黙示録4章6節に登場する4つの生き物―人間、獅子、雄牛、鷲―が四福音書記者（マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネ）の象徴と解釈されるようになったという（M・ルルカー著、池田紘一訳『聖書象徴事典』人文書院、1988年、24-27頁）。

現在の聖書館ビルは、旧聖書館が焼失した関東大震災から10年後の1933年、教文館と一体のビルとして建設された。1951年頃に撮影された写真には、松屋通り側に「人」、ガス灯通り側に「獅子」が写っている。1968年頃の写真からは、教文館の建物との境目付近に「鷲」が確認できる。したがって、四福音書記者のシンボルは、2枚の外壁の両端に、松屋通り側にヨハネ（鷲）―マタイ（人間）、ガス灯通り側にマルコ（獅子）―ルカ（雄牛）の並びで配置されていたことになる。聖書を頒布する日本聖書協会を象徴するレリーフであった。

2001年発行の『日本聖書協会125年史』には、聖書館ビルは1995年4月に外壁の改修工事が行われたとある。そして同書掲載の2001年時点の写真は、現在のように装飾のない無地の外壁に変わっている。おそらく1995年の改修工事により「雄牛」を除く3枚のレリーフが撤去されてしまったのだろう。

「鷲」のレリーフ
ヨハネを象徴する「鷲」のレリーフ。残念ながら所在不明となっている。

では、撤去されたレリーフはどこに行ってしまったのだろうか。館内を探索してみると、「人」と「獅子」のレリーフが見つかった。大きさは90cm四方の正方形で、材質は、鉛、錫、銅の合金であろうか。かなりの重さである。だが、ヨハネのシンボルは見当たらない。改修工事の混乱で破棄されてしまったのだろうか。どなたか希望者に差し上げてしまったのか。ヨハネの鷲のレリーフは今どこに…。

（日本聖書協会編集部　飯島克彦）

SOWER ソア No. 52
2024年4月1日発行
[年1回発行]
発行・一般財団法人 日本聖書協会
〒104-0061 東京都中央区銀座四丁目5-1 聖書館ビル
電話 03-3567-1988 FAX 03-3567-4451 振替 00160-2-18410

オーディオ版 聖書 聖書協会共同訳

Amazon Audible 配信開始

2018年12月に発行された最新の翻訳聖書、『聖書　聖書協会共同訳』に基づく、待望の朗読音声『オーディオ版　聖書 聖書協会共同訳』を2024年1月、世界最大級のオーディオブック、音声コンテンツ配信サービスの「Amazon オーディブル」で配信を開始しました。

クオリティの高い朗読：オーディションによって選ばれた第一線で活躍するプロの声優、俳優、ナレーターによる、明瞭で美しい朗読音声でお届けします。

全文収録：『聖書　聖書協会共同訳』（続編含む）の全文の朗読が収録されており、ユーザーは自分のペースで、好きな箇所から、いつでもどこでも聖書の言葉を聞くことができます。

多様なフォーマット：世界最大級のオーディオブック、音声コンテンツ配信サービスの「Amazon オーディブル」および、「ウェブバイブル～プレミアム版」で先行配信。スマートフォンアプリ、パソコンなど、ユーザーの好みに合わせて再生が可能です。（音楽配信サイトにおいても順次配信予定）

美しい日本語：礼拝で朗読されることを目的として訳された聖書協会共同訳は、まさしく朗読をとおしてその豊かさを発揮します。耳から聞くことによって、より深く聖書に浸ることができます。

聖書協会共同訳	旧約聖書 1	創世記～民数記	(21:06:00)
聖書協会共同訳	旧約聖書 2	申命記～サムエル記下	(19:33:57)
聖書協会共同訳	旧約聖書 3	列王記上～エステル記	(20:17:46)
聖書協会共同訳	旧約聖書 4	ヨブ記～イザヤ書	(21:17:14)
聖書協会共同訳	旧約聖書 5	エレミヤ書～マラキ書	(21:51:22)
聖書協会共同訳	旧約聖書続編 1	トビト記～マカバイ記二	(12:12:04)
聖書協会共同訳	旧約聖書続編 2	知恵の書～マナセの祈り	(14:32:50)
聖書協会共同訳	新約聖書 1	マタイによる福音書～使徒言行録	(17:03:13)
聖書協会共同訳	新約聖書 2	ローマの信徒への手紙～ヨハネの黙示録	(12:55:43)

全巻長さ 160:50:09

一般財団法人 日本聖書協会

詳細は Amazon サイトでご確認ください。

一般財団法人 日本聖書協会のホームページ
https://www.bible.or.jp/
デザイン＝株式会社 デザインコンビビア
印刷＝株式会社 高速オフセット